

教育方針	<p>【学校教育目標】「夢に向かってのびる 杉っ子」 ～わくわく登校 生き生き学習 笑顔でつながるみんなの学校～</p> <p>【めざす子供の姿】 ○進んで学ぶ子 【確かな学力】 ○郷土を愛する子 【高い自己有用感】 ○強い心と体をつくる子 【健やかな体】 ○心を磨く子 【豊かな心】</p>	重点目標	<p>①互いのよさを認め合い、つながり合い、高め合う学習集団作り ②特別な教育的ニーズのある児童が生き生きと学ぶことができる特別支援教育・教育相談の充実 ③他者の考えを尊重し、さわやかな自己主張で互いの納得解を見つけ出そうとする話し合い活動の充実 ④ICTを活用し、協働的で、個別最適な学びの一体的な充実をめざす授業づくり</p> <p>⑤自らの生活や健康を管理し、自立した生活を送ろうとする児童の育成 ⑥地域人材との交流学习を中心に、WIN×2のふるさとキャリア教育の推進 ⑦メンターチーム、学年団、校務分掌を中心とした次世代育成システムの構築</p>
-------------	---	-------------	--

(4 : 十分に達成できた 3 : ほぼ達成できた 2 : あまり達成できず 1 : ほとんど達成できず)

評価項目	具体項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価基準	自己評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
確かな学力	○子供同士がつながる話し合い活動。	○児童の発言は増えたが、深まりのある話し合いにはなっていない。	○友達との話し合いを通して学習内容の理解を深める。	○授業で行う話し合い場面(ねりあい)で児童が発言をつなげあうことで学習内容の理解を深める。	◆授業中の教員による見取りと児童アンケートにおける肯定的項目達成70%以上。			
	○読み取りの力の向上	○算数の力は高まりつつあるが、読み取りの力が低い。読むことへの意欲が低い。	○問題の場面を正しく読み取り、課題を解決することができる。	○国語の教科書巻末の「ことばのたから箱」を活用し、語彙を増やす工夫をする。 ○算数では、図をかきながら問題を読むようにする。 ○図書館の使用割り当てを活用する。	◆教員へのアンケート達成率70%以上。			
	○読書活動・図書館活用の充実と発展	○学習での図書館利用は十分ではない。	○図書や図書館を活用し、読書や学習への意欲が高まる。		◆教員へのアンケート達成率70%以上。			
豊かな心	○自己有用感、自己肯定感の育成	○様々な活動や学習に前向きな気持ちで取り組む児童がいる。一方で、自分の良さや役立ち感に気づかず、後ろ向きな発言をする児童も見られる。	○学校や学級への所属感を高め、役立ち感を味わい、笑顔で生活している。	○学級活動(1)でみんなで話し合っ決めて決めたこと(遊びや役割など)を実践することで、役立ち感や有用感などを高める。	◆児童アンケートで自己有用感、自己肯定感の項目で肯定的意見が80%以上。			
	○あいさつを当たり前にする子の育成	○すれ違う際に先生や来客を見かけたら自然とあいさつをする児童がいる。一方で、あいさつが習慣化していない児童も見られる。	○いつでも、どこでも、誰にでもあいさつをしている。	○あいさつ標語、あいさつキャラクターなどを募集するなど、児童会活動を充実させることであいさつへの意識を高める。 ○学級活動(2)で自己決定した取組をあいさつ週間で実践する。	◆児童アンケートであいさつに関する項目で肯定的意見が80%以上。			
健やかな体	○体力の向上	○新体力テストで例年に(本校)比べ、シャトルラン、反復横跳びが少し低い。	○自分の体力を向上させようとする意識を持ち運動する。	○体育の授業を中心に縄跳びなどの運動を取り入れたり、マラソン大会に向けて全校のみんながやる気を出す取り組みを体育委員会で企画したりする。	◆シャトルラン、反復横跳びの体力結果を例年の数値に近づける。			
	○体づくり(姿勢)	○姿勢の保持や大きなけがを未然に防ぐことができる運動能力や体幹づくりが課題。	○よい姿勢を保持して学習できたり、自分の身を守るための運動能力を向上させようと努力したりする。※立腰	○朝の会での「ワンミニッツエクササイズ」等の実施(学級で工夫)や、学級・学年のみんなで楽しく挑戦できる運動(大縄跳び等)を行う。	◆児童アンケート「良い姿勢で学習した」等の達成率75%以上を目指す。			
	○メディアコントロールの推進	○タブレット使用等、メディアに関わるが増加。	○正しくメディアを活用し関わることができる。	○町教育会健康体育部の保小中の状況や課題、PTA保体部での考察等を共通理解して生かす。	◆年2回のメディコンウィークの結果を考察し、意識の向上を図る。			
保護者・地域との連携	○地域とともに当事者意識でつくるみんなの学校	○分担によりHP担当の負担が軽減されたが、校外学習等学年行事の更新ができていない学年もあった。	○メディアの特長を活かしてタイムリーに情報発信している。高学年児童を中心に児童主体で情報発信している。	○高学年児童を中心に相手意識の醸成や学びの活用を目的とし、学習のまとめ等の場面でHPでの情報発信をする。	◆年間行事、学年の校外学習等を更新している。			
		○6地区の情報が掲示発信されるようになった。児童への周知が必要。	○地区の行事や特色を知り、地域に関心と愛着をもっている。	○公民館の協力を得て掲示板更新と事業写真を掲示。地区事業チラシ配布時に担任から周知する。	◆掲示板を見ている児童や事業参加する児童の割合が年度始めより増えている。アンケートを実施。			
		○コミュニティ・スクールが発足したが、地域を呼び込むことが十分とは言えない。	○コミュニティ・スクールを生かし、地域と学校の双方が連携のよさを実感する。	○年間学習計画を見直し、地域の人材を活用できそうな単元、必要としているものを見える化し地域へ伝える。できれば相手からも返事をいただく。	◆学校での学習内容や計画の中の位置づけ、必要な人材を確保できたか。			